

ファミリー・アンド・ヒストリー

〔第51回〕

食べ物の好き嫌い

✦ 文 岩本耕太郎 text by Kotaro Iwamoto ✦

私は好き嫌いが多く、生まれたときから貝を食べたことがありませんでした。

それどころかタコやイカ、カニやエビあるいは魚全般も小さい頃は食べませんでした。今考えるとずいぶん損をしていたなと思います。

大人になるにつれ食べられるものが徐々に増えてきて、ようやくお寿司屋さんの暖簾をくぐれるようになったのは50歳を超えてからでした。

そんな私ですがいまだに、どうしても食べられないものがあるのです。

由もなく、ただ私には食べ物というように思えなかった、という言い方が正しいと思います。

話は変わりますが、ユダヤ教には食事に対する厳しい戒律があります。

カシエルまたはコーシャーという言葉があり、その意味は「適合した状態」のことで、食べ物に関しては食物の清浄規定（カシユルト）に適合した、食べてよい食物のことを指します。

その内容は『レビ記』に示されています。4つ足の獣のうち蹄が分かれていて、反芻をするものは食べてよいとあります。従ってブタは反芻をしない

ので食べてはいけません。

海や川・湖に住む生き物でヒレや鱗のあるものは食べてよいとされています。従ってエビやカニなどの甲殻類、貝類、タコやイカなどは食べられません。

ブタを除けば全て私が苦手とするものばかりですが、偶然の一致ではないかもしれません。

以前にも一度書いていますが私の子供の頃からの記憶では好きだったものがデイル・ピクルスやオリブ、コンビーフにミートローフなど、全く日本的でないものばかりでした。

当時のピクルスといえば甘いものが主流でしたが、何故か私はそうではない酸っぱくて太いピクルスを好んで食べました。

実はピクルスはユダヤ料理では一般的なもので、ユダヤレストランでは着席した途端にピクルスとベーグルが運ばれ、それをつまみながら料理を選びました。

私の好き嫌いや、食習慣もまた自分の中のイスラエルの血がそうさせているのかもしれない。



profile

帝国クリニック院長

1959年生まれ。幼少期をボストンで過ごす。

山形大学医学部卒。米国イリノイ州立大学で分子生物学を研究、1993年より現職。

サーフィンとクラシックカーをこよなく愛し、4世代7人家族。

著書に『患者さまが増える』（H&I出版）、『エグゼクティブが実践するたった一つの健康法』（中経出版）